

天理市

天理駅周辺地区まちづくり基本計画

令和7年1月更新

1 天理駅周辺地区まちづくり基本計画策定の背景

(1) 計画策定の背景・目的

天理駅周辺地区は、本市の市街地中心部に位置し、天理駅はJR桜井線と近鉄天理線が接し、乗客数1万人弱の交通結節点となっている。しかし、本市の人口減少に伴い、天理駅の乗客数は年々減少しており、天理駅前広場はイベント時以外、閑散としていた。

こうした状況を踏まえ、天理駅周辺地区を日常から人が集う空間として、本通りに繋がる動線を脈わせるとともに、市外からの訪問者を迎える玄関口として、天理の魅力・豊かさを発信する場に生まれ変わらせることを目指し、平成26年10月に県内39市町村の第1号として「奈良県と天理市とのまちづくりに関する包括協定」を締結し、県・市が連携・協力して天理駅周辺地区を核とした賑わいの創出に取り組むことにより、当該地区の持続的発展及び活性化を図ることを目的として平成28年3月に「天理駅周辺地区まちづくり基本構想」を策定した。

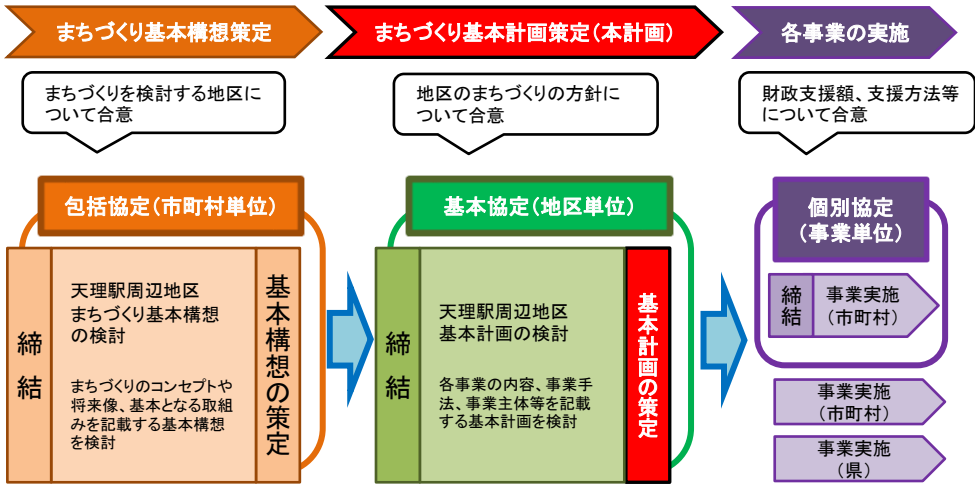
その後、この「天理駅周辺地区まちづくり基本構想」の実現に向け、地域住民・民間事業者・行政等の幅広い関係者が相互に連携しながら、協働で本地区において効率的・計画的に事業の展開を図ることを目的として、令和2年1月に「天理駅周辺地区まちづくり基本計画」【平成31年～令和5年】を策定し、事業を進めているところである。この間、天理駅前広場「コフン」と、令和4年3月21日に開村した「なら歴史芸術文化村」を拠点として、複合的な交流の創出を図ってきたが、さらなる賑わい、支え合いを創出する取組が求められている。

こうした状況の中、基本計画策定から5年の経過を迎えるにあたり、計画全体の進捗状況や目標の達成状況、社会情勢の変化等を踏まえ、引き続き天理駅周辺地区において事業を展開していくため、基本計画を更新する。

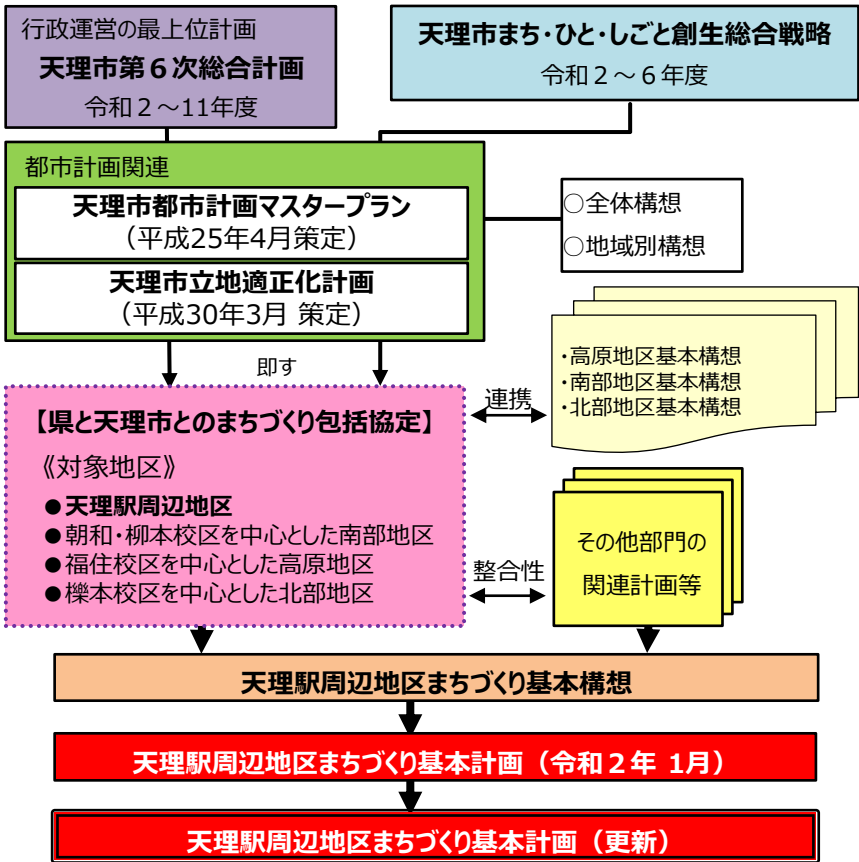
■ 奈良県との協定に関する経緯

平成26年10月	奈良県と天理市とのまちづくりに関する包括協定締結
平成28年 3月	天理駅周辺地区まちづくり基本構想 策定
平成28年 3月	天理駅周辺地区のまちづくりに関する基本協定締結
令和2年 1月	天理駅周辺地区まちづくり基本計画 策定

■ 連携協定の一般的な流れ

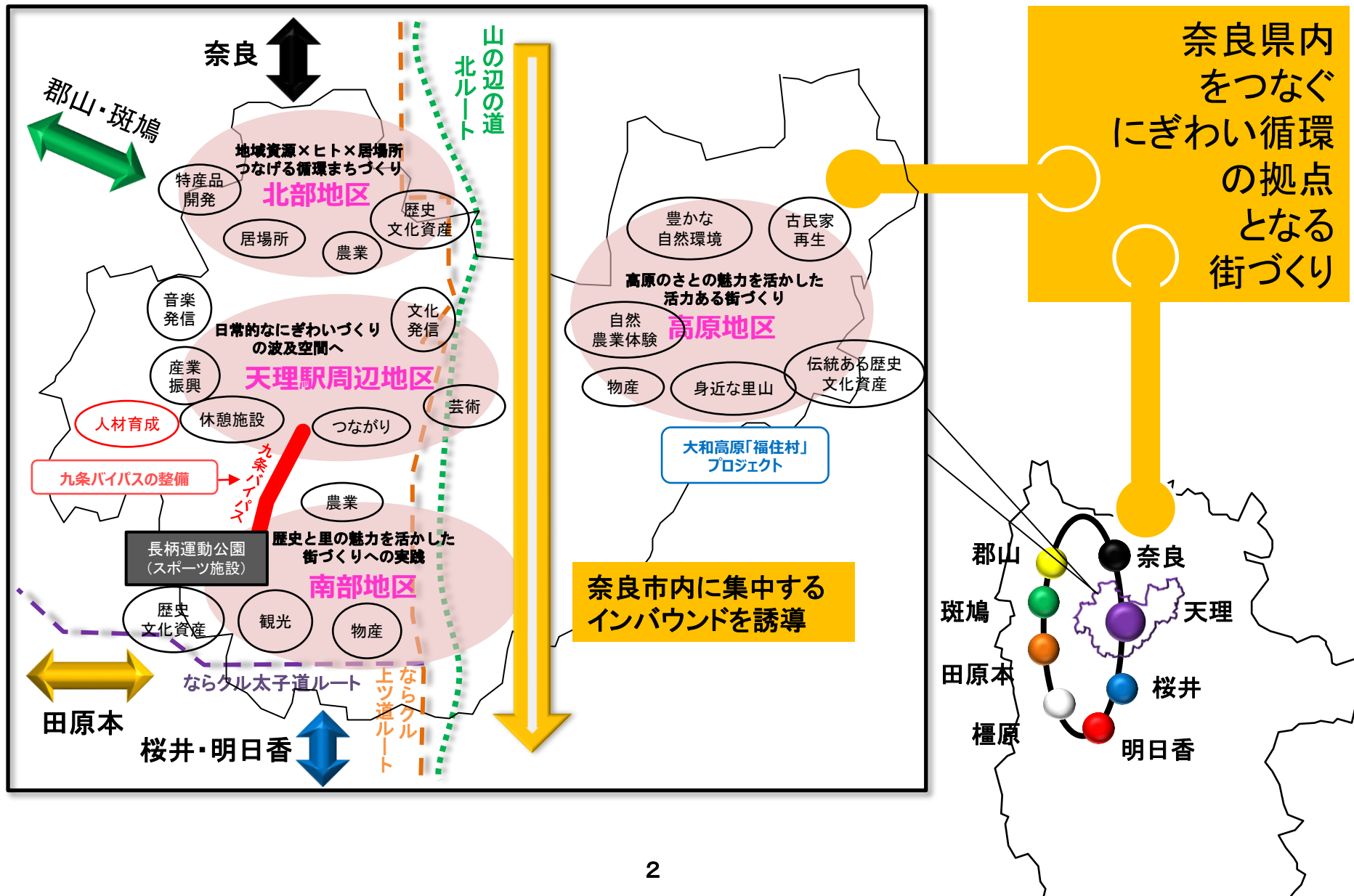


■ 基本計画の位置づけ



(2) 天理市が目指すまちづくりの方向性

天理市×周辺市町村 にぎわい循環 MAP



(3) 基本計画策定後の経過

2017年

2018年

2019年

2020年

2021年

2022年

2023年

天理駅前広場コフンがオープン



Art-Space TARN



モリノゲストハウス



なら歴史芸術文化村が開村



天理駅前広場コフンがリニューアル

02

天理駅前広場
コフン

8月1日

天理大学 × mont-bell

Grand Open

▶天理大学 × モンベルストア (アウトラショップ)

●アウトラ用品をはじめ、山の遊びがデザインされた服装、アッシュも販売

●電光観光のツアーやイベントも企画される予定

営業時間 10時～19時

定休日 年中無休

▶カフェ (TEN.TEN.CAFE 天理コフン店)

●地産産品を使用したメニューをお楽しみいただけます

▶サテライトキャンパスで学んだ学生が考案したメニューの提供

営業時間 11時～17時

土・日・祝日も10時オープン

定休日 不定休

03

アイ コラボ ショップ

天理大学 i.CONNECT Shop

& サテライトキャンパス オフィス

▶天理大学 i.CONNECT Shop

●市内を中とする特産品や天理大学グッズを販売

●天理大学の学生が選定 (天理のええもん) を学生自身が販売します

●参加費なし、大学関係者の情報発信

営業時間 10時～17時

定休日 第1・第3火曜日

01

天理大学 サテライトキャンパス

電光と電光、共に関する構築を行っています。インターンシップも含めたプログラムとなり、一般の市民職さんも学生と一緒に科目履修生 (リカレント教育) として受けます。

(注) リカレント教育については、天理大学ホームページを確認ください

▶観光案内コーナー

サテライトキャンパスで学んだ学生が笑顔の裏として観光コンシェルジュとして活躍中です。

アーティスト・イン・レジデンス

天理市が「SDGs 未来都市」と「自治体 SDGs モデル事業」に選定されました！

SDGs の達成に向けて、経済・社会・環境の3側面の統合的取組による相乗効果、新しい価値の創出を通して、持続可能な開発に取組む自治体として、内閣府から「SDGs 未来都市」に選定されました。

今年度は、24 自治体が選定され、自見地方創生担当大臣から選定証が授与されました。奈良県では、十津川村、生駒市、三郷町、広陵町に次いで5例です。

また SDGs 未来都市の中から、地域における自律的好循環の形成が見込める、特に先進的な事業として「自治体 SDGs モデル事業」に選ばれました。

経済

- ・産官学連携の観光・農一帯による経済の活性化
- ・地域資源の活用

社会

- ・市民共創型まちづくり (まちの豊かさの創造、well-beingの向上)
- ・大学と連携したまちづくり

環境

- ・有機農業によるオーガニックビレッジの実現
- ・カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの取組
- ・みよのゼロ・ウェイスト社会の実現

ichica

山山発！環境共生による地域ブランド力向上プロジェクト

オーガニックビレッジの取組による経済の活性化

経済圏による有機農業の発展

環境保全活動と連携したコミュニティの活性化

歩道橋によるCO2排出量の削減

3

(4) 天理駅前広場「コフン」のリニューアルについて

天理駅周辺地区においては、天理駅前広場「コフン」オープン以来、子どもからお年寄りまで多くの人でにぎわっている。さらに、令和6年度より天理駅前広場における産・官・学連携プロジェクトとして、天理大学・モンベル共同体和連携し、観光・農業に関する研究活動や人材育成の場として新たな活用を行う。

【天理駅前広場「コフン」の役割】

●継続的な賑わいを創出する複合交流拠点施設

天理駅前広場「コフン」は、イベントの開催や観光・ものづくり、農業情報の発信、近隣住民の憩いの場として活用されることで、市の玄関口における継続的な賑わいを創出し、周辺地域への賑わいの波及・循環を図っている。

●つながりの場

天理駅前広場「コフン」は、多様な主体のつながりの場。また、「支え合いのまちづくり」の実現を目指し、地域の課題解決のモデル事業を天理駅前広場「コフン」で実施することで、共通課題の解決手法を共有するとともに、様々な施策・取組を市内各地域へ波及させていく。



【施設概要】

■天理市×天理大学・(株)モンベル TENRI UNIVERSITY mont-bell

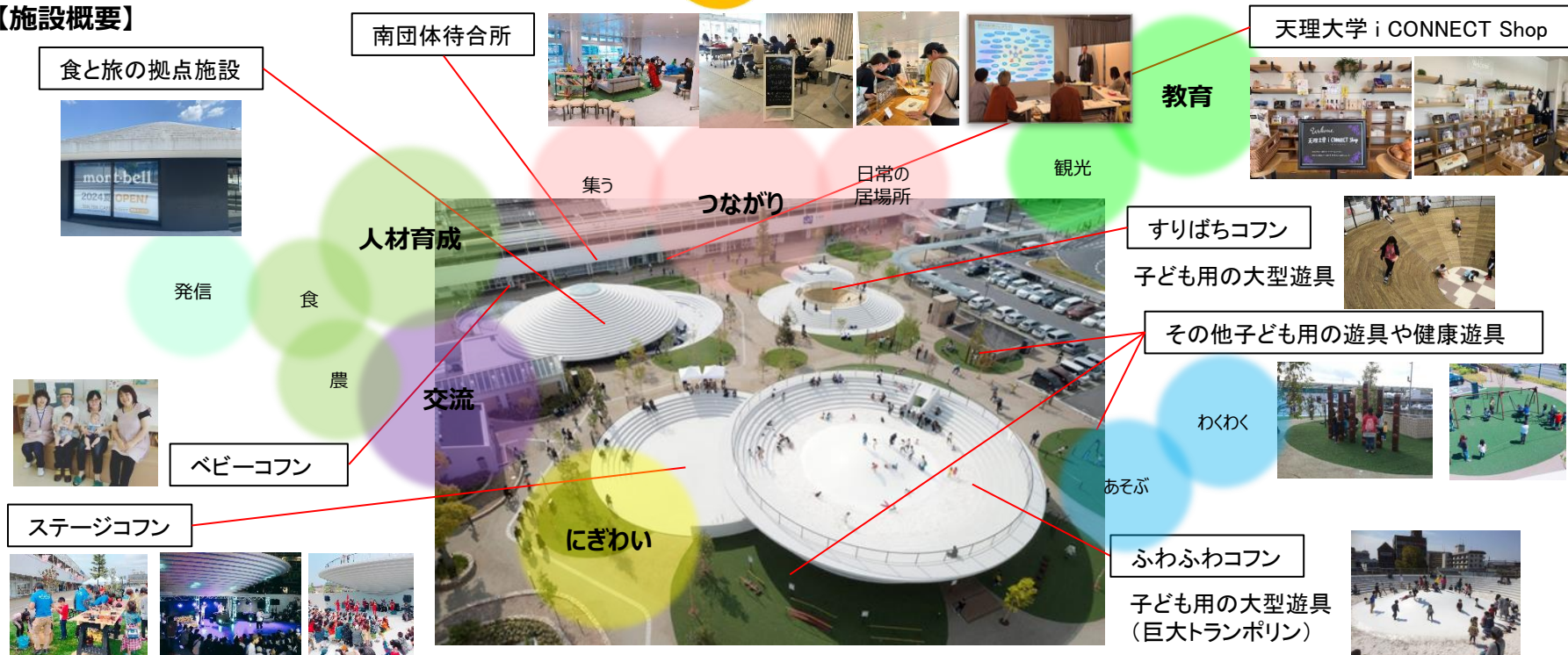
●天理大学サテライトキャンパス

天理大学は、天理駅前広場南団体待合所等において「天理大学サテライトキャンパス」を設置・運営する。南団体待合所は、天理大学の農業及び観光に関する講義やグループディスカッションの場として活用することによって、天理大学生が農業と観光の学びを深められるようにするとともに、市民にも授業を開放しリカレント教育の機会を提供する。

※リカレント教育…社会人が必要なタイミングで教育を受けること

●食と旅の拠点施設

天理大学は、(株)モンベルと共同事業体として、インフォ&ラウンジコフンにおいて、飲食スペース（カフェ）と売り場（アウトドアショップ）を設け、天理を起点とする山の辺の道を中心とした周遊観光のためにアウトドア用品の販売や地元農産物を使ったメニューの開発を行う。さらに、南団体待合所においては、天理大学生が観光コンシェルジュとして観光客支援を行うことで、地域観光資源について実地に学び、地域事業に従事しながら将来に向けた地域の農業と観光に貢献できるノウハウを身につけることを目指す。



2 天理駅周辺地区のまちづくりのコンセプト

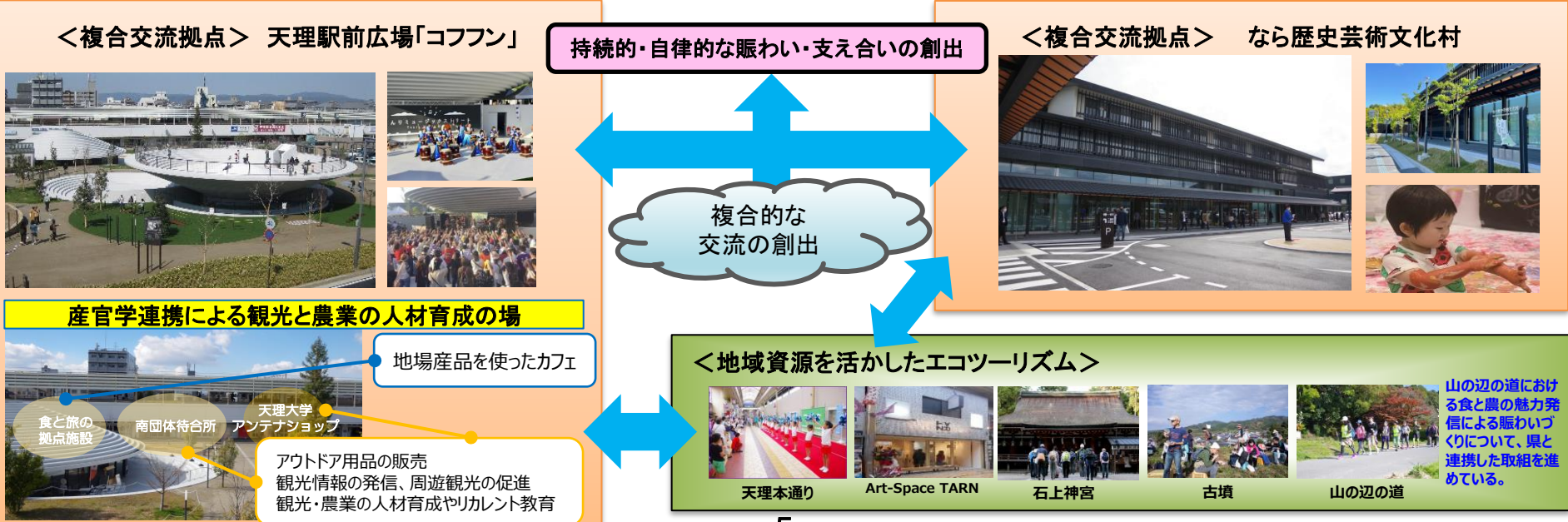
天理駅周辺地区では、平成29年4月に天理駅前広場「コフン」等が整備され、市内外から多くの方々が訪れるとともに、地域の方々が主催のイベントを中心に年500件近くのイベントが開催され、新たな賑わい・支え合いが創出されている。また、これらのイベント等により、文化、芸術、スポーツや福祉などの多種多様な分野の方々の交流が生まれ、それが新たなイベント等の賑わい・支え合いを創出するといった好循環が形成されつつある。また、天理駅周辺地区では、奈良県の強みである歴史文化資源を活用し、文化・芸術振興の取り組みに加え、観光・産業振興、まちの賑わいづくりなど政策間連携を図ることで地域の魅力を高め、地域活性化を実現するため、先駆的な拠点として、令和4年3月21日に「なら歴史芸術文化村」が開村した。「なら歴史芸術文化村」では、日本で初めてとなる文化財4分野の修復や展示を行う文化財修復・展示棟、アーティスト交流、幼児向けアートプログラム、音楽や伝統芸能を体験できる芸術文化体験棟、道の駅やショップ、レストランが入った交流にぎわい棟、観光案内を行う情報発信棟、民設民営の宿泊施設等が整備され、芸術家、工芸家、文化財修理技術者、アーティスト、農産物等生産者、地域の方々、観光客など多様な分野の複合的な交流を生み出すことにより、新たな芸術・文化や賑わいが創出されはじめている。

さらに、令和6年度より天理駅前広場における産・官・学連携プロジェクトとして、天理大学・（株）モンベル共同事業体が、大学生と協働して地域農業の付加価値化を目指した飲食の提供や地域内周遊観光の促進に向けた事業を実施する。天理駅南団待合所を引き続き市民の憩いの場として開放しつつ、天理大学のサテライト・キャンパスとしても位置付ける。観光や農業について単位を取得できる講義を行い、その履修者が観光コンシェルジュとして観光案内拠点を運営し、広場内のアウトドアショップやカフェでインターンを行い、実践的な育成プログラムを実施する。

また、コフンでできた賑わい・支え合いの好循環の流れを継続的なものとし、地区全体に波及させるために、本通りから天理教教会本部、天理大学、石上神宮、山の辺の道へと続くエリアにおいて、産官学と市民が一体となって新たな魅力を創造することが重要である。これらの周辺にある食、泊、アクティビティ、文化、農、自然などの地域独自の資源と結びつけ、地域内の経済活動の活発化の視点で取り組むことも重要になってくる。

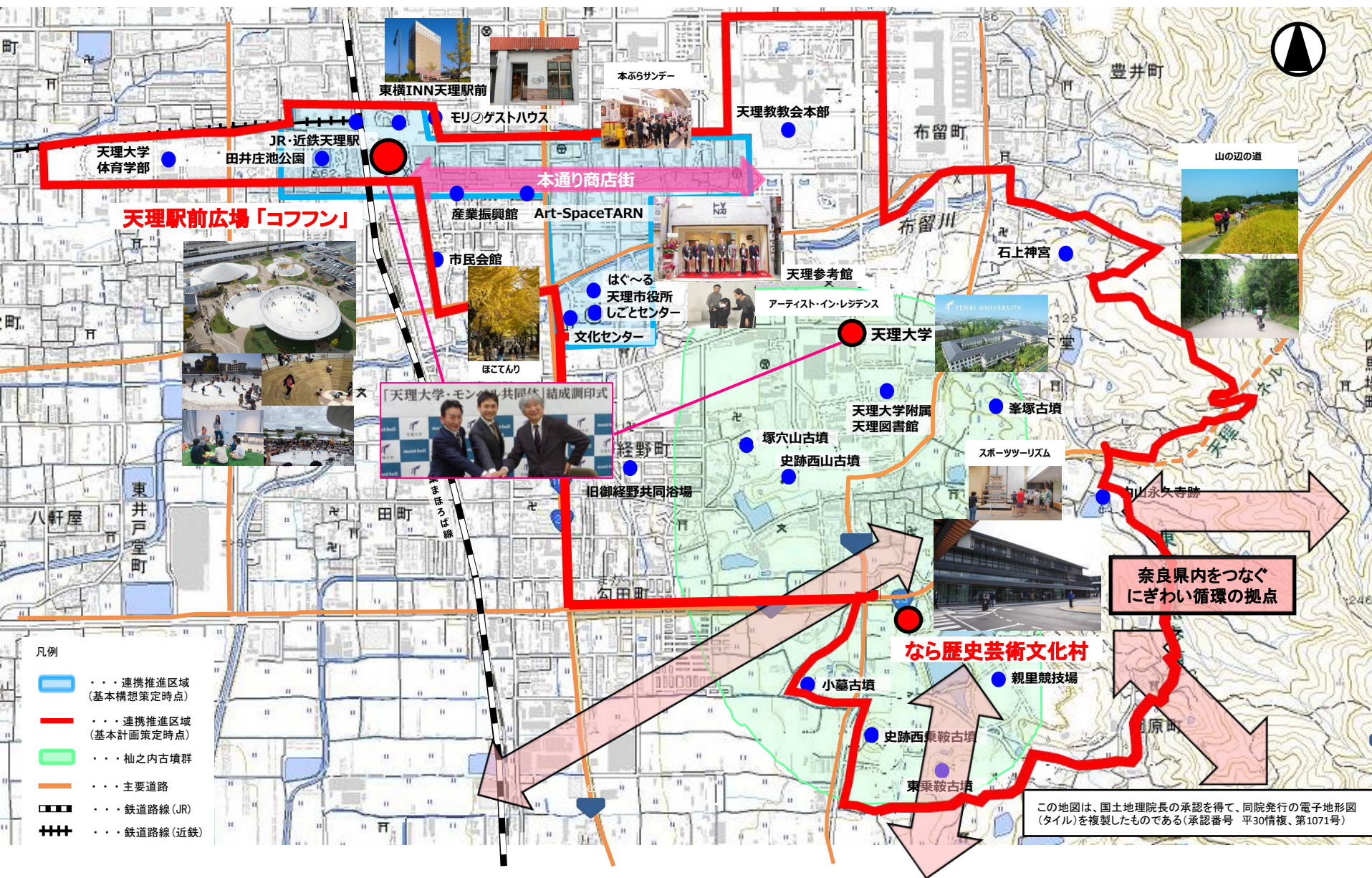
以上を踏まえ、これまで以上に天理駅前広場「コフン」と「なら歴史芸術文化村」の両拠点の結びつきを強くすることを目指し、天理駅周辺地区のまちづくりのコンセプトは引き続き、「天理駅前広場「コフン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する」とする。

<コンセプト> 天理駅前広場「コフン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する



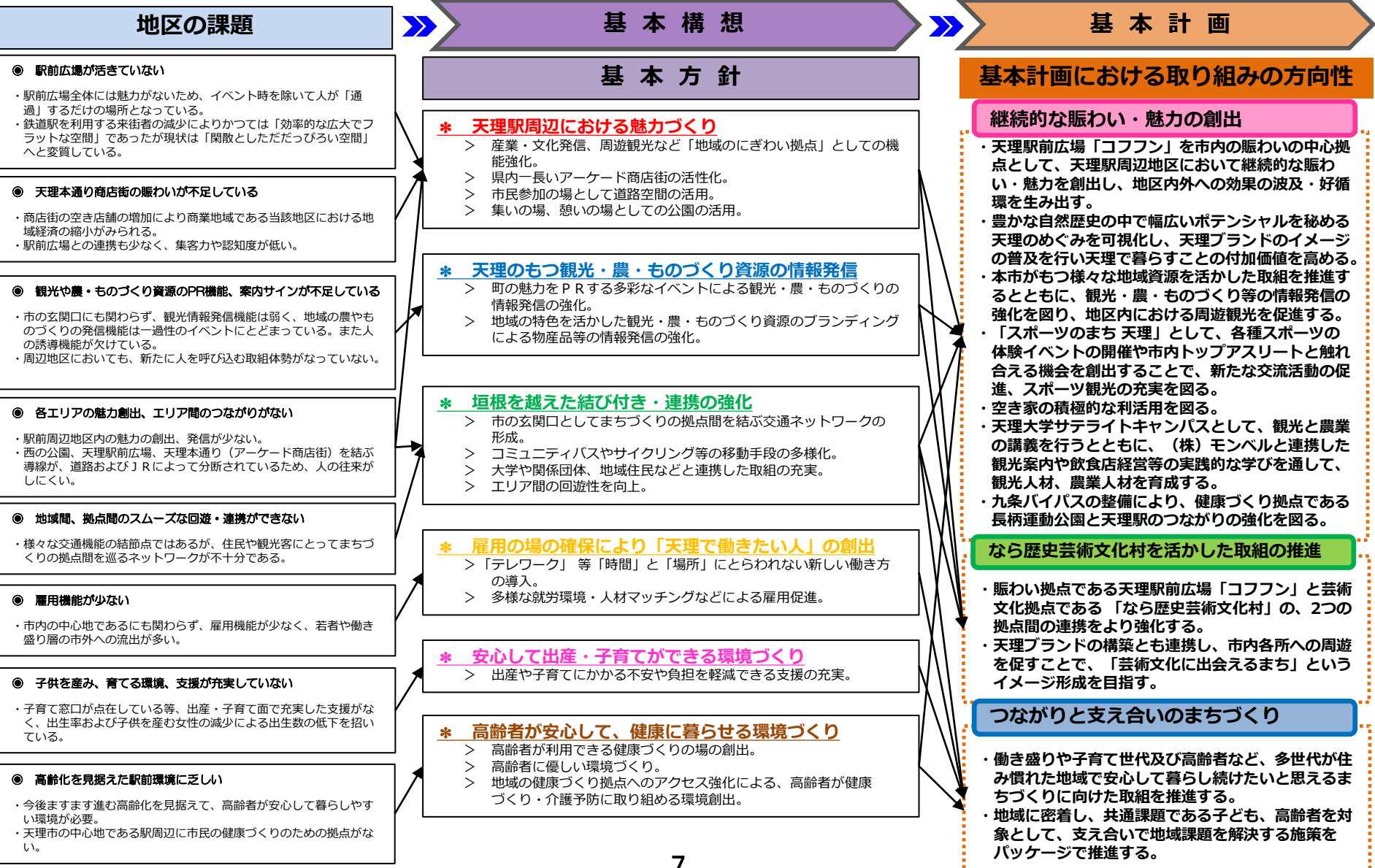
3 基本計画で定める対象地区

对象地区



4 基本計画で定めるまちづくりの取組

まちづくりのコンセプトである『天理駅前広場「コフフン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する』を実現するため、まちづくり基本構想で定めた基本方針を基に、まちづくり基本計画の計画期間（R6～R10年度の5年間）において取り組む重点施策について次のとおり定める。



5 天理駅周辺地区 事業一覧

まちづくり基本構想の実現に向けて取り組む事業について、5年以内に完了または着手する具体的な取組に加え、それ以降の将来的な取組も含めて以下に示す。

■継続的な賑わい・魅力の創出



継続的に実施する事項



事業前に実施する事項

事業名			ハード ソフト	事業 主体	事業内容	R6	R7	R8	R9	R10	R11～	事業手法
賑わい交流拠点の 整備	1	天理駅前広場「コフン」 整備事業	ハード	市	天理駅前広場に公園スペースを創出し、子育て世代から高齢者まで多世代の市民が集い、交流し、市外からの来訪者に本市の魅力を発信することができる施設を整備する。【H29.3整備完了】							事業完了
継続的な賑わいの 創出	2	天理駅前広場「コフン」 賑わいづくり事業	ソフト	各種団体 事業者 市	天理駅前広場「コフン」において、賑わいを創出するための市民や民間主体のイベント等の開催・運営を支援し、市の玄関口における継続的な賑わいの創出を図る。	賑わいを創出するイベントの企画・運営の支援						
	3	コフンマルシェ事業	ソフト	事業者 市	天理大学及び(株)モンベルと連携し、人材育成プログラム履修生が、地域とともに天理市の新たな魅力の発掘・発信や、定期的なマルシェの開催、新商品開発・販路拡大を行う。	コフンマルシェの開催						●デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)
						新商品開発・販路拡大						
	4	若手農業者団体による直売 イベント事業	ソフト	事業者 市	農業の担い手の育成や振興を図るため、農業者団体による、定期的な直売イベント等を開催する。	直売イベントの開催						
円滑な移動の確保	5	バリアフリー化の推進事業	ハード	市	中心市街地においては、バリアフリーやユニバーサルデザインを十分に考慮し、快適に生活できる環境づくりを推進する。また、「天理市バリアフリーマスタープラン」及び天理駅周辺からなら歴史芸術文化村までの動線を考慮にいたれ、「天理市バリアフリー基本構想」について検討する。	天理市バリアフリーマスタープラン及び 基本構想の検討		天理市バリアフリーマスター プランの策定		天理市バリアフ リー基本構想・特 定事業計画の策定		●地域公共交通バリア フリー化調査事業 ●バリアフリー環境整 備促進事業
	6	九条バイパス整備事業	ハード	県	バイパス整備により、健康づくり拠点である長柄運動公園と天理駅のつながりの強化を図る。	設計・用地買収・整備工事						●社会資本整備総合 交付金
地域ブランドの向上	7	天理ブランド認定・販路拡 大事業	ソフト	市	地域資源を活用した「天理らしさ」を有する産品等の発掘・認定、市内外での販路開拓・PRを展開することで、既存のサービスや商品の付加価値を最大化し、地域内における生産性の向上や経済循環に繋げる。	ブランディング事業の拡大（認定事業等）						
						天理ブランド商品の販路開拓・P R						
魅力ある緑地空間の 確保	8	街路樹・植栽の維持管理 事業	ソフト	市	街路樹・植栽による魅力ある緑地空間の確保など、本市の玄関口並びに都市の骨格にふさわしい街路空間の形成に努める。	街路樹・植栽の維持・充実						
スポーツのまち天理 の促進	9	天理アスリート応援 プロジェクト事業	ソフト	市	市内のトップアスリートたちを応援する機会を創出し、直接ふれあえるイベントを実施することで、より市外からのスポーツファンを呼び込み、新たな交流活動の促進につなげる。また、周辺の商店街や観光スポットへの周遊を促すことで、スポーツ観光の充実や市をPRする機会の創出、更なる人の流れを生み出し地域振興につなげる。	パブリックビューイングの実施						
						10	スポーツ体験イベント事業	ソフト	市	天理駅前広場において、モルック体験会やスロージョギング教室等、年齢を問わず誰でも参加できる各種スポーツ体験イベントを実施し、まちの賑わいの活性化を図る。	各種スポーツ教室の実施	

事業名			ハード ソフト	事業 主体	事業内容	R6	R7	R8	R9	R10	R11～	事業手法
移住・定住の促進	11	空き家の利活用推進事業	ソフト	市	天理駅周辺地区においては、山の辺の道周辺及び天理駅前市街地（旧街道）を中心に、空き家の利活用を推進するため、空家バンクの運営やイベントによるPR等を実施する。	空き家バンクの運営						
						イベントによるPR		モデルケースの創出		空き家の利活用		
地区内における周遊 観光の促進	12	周遊促進のための情報発信 事業	ソフト	市	2025年の万博を控え今後もインバウンド需要の拡大や観光需要の高まりが予想される。10言語に対応した観光サイト「JFM」を活用するため、名刺サイズの観光カード作成し、天理市の観光を広く周知する。また廃止となった旧浴場を民間事業者に売却の上、既存建物を活用することで、近隣に位置する山の辺の道等への観光振興や情報発信を行う。	観光カードの作成						
						旧浴場公募型 プロポーザル		旧浴場利活用事業				
観光・農業振興に 向けた産官学連携 人材育成	13	観光人材育成事業	ソフト	各種団体 事業者 市	事業の拠点となる天理駅前施設において、観光に関する大学生キャリア教育と市民のリカレントのための講座を開設する。また、履修者は、㈱モンベルが展開するアウトドアショップや等を活用し、地元企業等と連携したインターンシップを行うことで、観光案内所の運営や効果的な情報発信を実践的に学び、将来に向けた地域に貢献できるノウハウを習得する機会を創出する。	観光人材の育成						●デジタル田園都市国家構 想交付金（地方創生推進タ イプ）
						観光案内						
	14	農業人材育成事業	ソフト	各種団体 事業者 市	天理駅南団体待合所において、これまでの市民交流の場としての機能を維持しつつ天理大学サテライトキャンパスを設置し、農業に関する科目を新設し講義を行う。また、リカレント教育として一般市民を受け入れ、学生とともに科目履修制度を利用し、農業人材育成を行う。	農業人材の育成						●デジタル田園都市国家構 想交付金（地方創生推進タ イプ）
インバウンド対応	15	外国人の雇用事業	ソフト	各種団体 事業者 市	外国人を雇用し、人材育成事業の中で観光のポイントを学生に伝え、インバウンドにも対応した観光案内の実施・サポートを行う。	外国人の雇用						●デジタル田園都市国家構 想交付金（地方創生推進タ イプ）
	16	観光振興事業	ソフト	各種団体 事業者 市	全国に多くの会員を持つ(株)モンベルの観光情報等の発信力を活かし、山の辺の道を中心とする本市の魅力を広くPRするため「フレンドエリア」に登録し、全国からの誘客を図る。 多言語対応位置情報連動型音声ガイドアプリを導入し、インバウンドにも対応した観光案内を行う。	フレンド エリア登録		フレンドエリアの充実				●デジタル田園都市国家構 想交付金（地方創生推進タ イプ）
						音声ガイド 作成		音声ガイドの充実				
特産品の発見・創出・ 販売	17	特産品販売事業	ソフト	各種団体 事業者 市	事業の拠点となる天理駅前施設において、従来の特産品に加え、人材育成事業の中で学生が発見・創出した特産品の販売を行う。	特産品販売						●デジタル田園都市国家推 進交付金（地方創生タイプ、 横展開型）

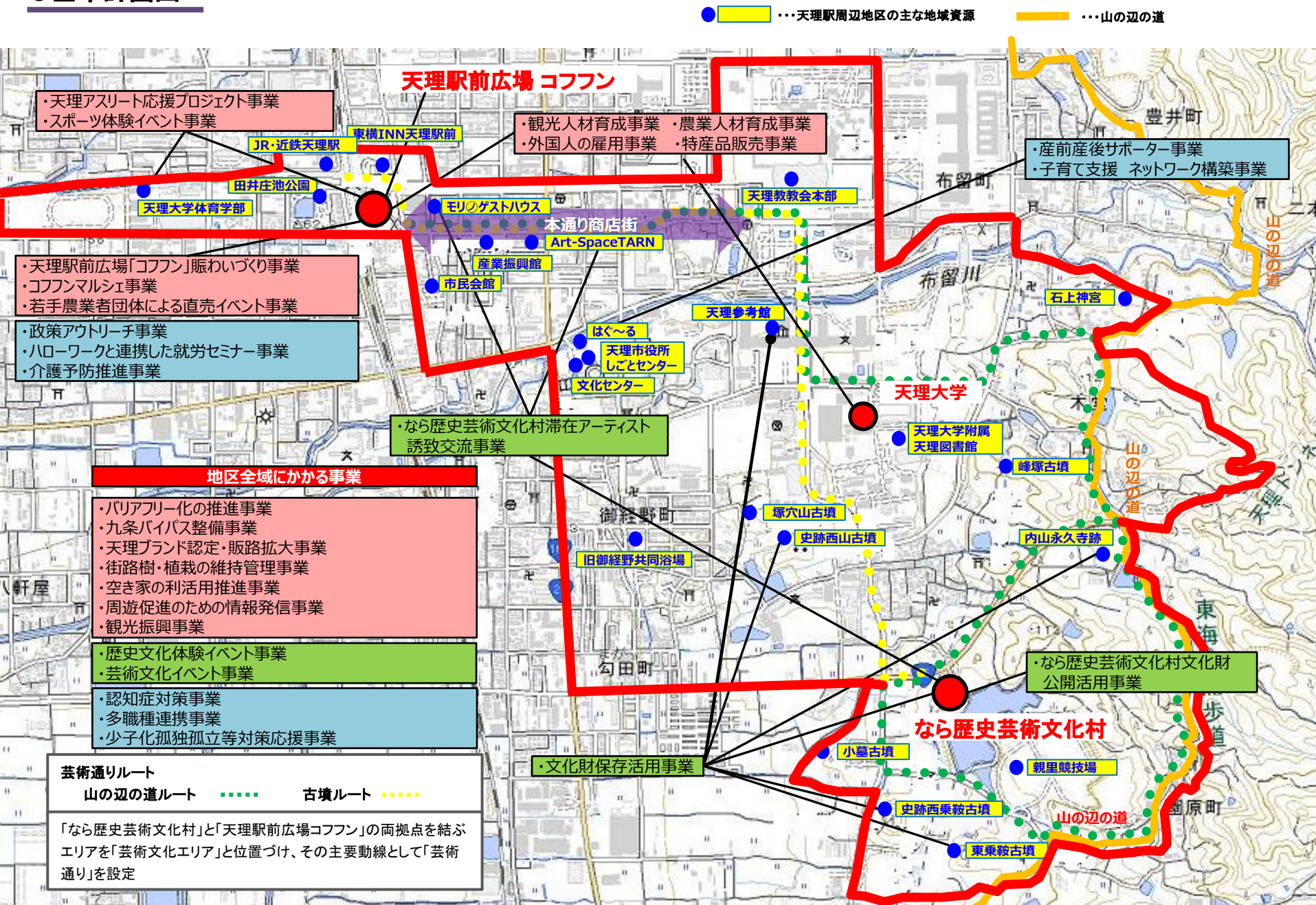
■なら歴史芸術文化村を活かした取り組みの推進

事業名			ハード ソフト	事業 主体	事業内容	R6	R7	R8	R9	R10	R11～	事業手法
芸術文化拠点の 整備・運営	1	なら歴史芸術文化村 整備事業	ハード	県	歴史、文化、伝統を有する奈良県が、その強みである文化資源の最大の活用を目指し、その拠点施設としてなら歴史芸術文化村を整備する。【R4.3整備完了】							事業完了
文化財を活用した 地域交流の推進	2	文化財保存活用事業	ソフト	市	なら歴史芸術文化村に近接する観光・くつろぎの拠点として杣之内古墳群の保存と活用に取り組み、文化財の利活用を推進する。	コンテンツ作成、文化財のPR、イベントの開催等						
						史跡の環境維持・管理						
	3	歴史文化体験イベント事業	ソフト	市	天理参考館の学芸員や天理市ボランティアガイドと、なら歴史芸術文化村が連携して、杣之内古墳群や「山の辺の道」をはじめ、天理の見所や歴史文化を体験することができる体験型イベントを行う。	歴史文化体験イベント・ワークショップの実施						
	4	なら歴史芸術文化村 文化財公開活用事業	ソフト	市	文化財の保存と活用の拠点として整備されるなら歴史芸術文化村において、考古遺物整理作業の公開・展示会・講演会等を幅広く展開する。	考古遺物整理作業の公開・展示会・講演会等の実施						
アーティスト・イン・ レジデンス	5	なら歴史芸術文化村 滞在アーティスト誘致交流 事業	ソフト	県 市	なら歴史芸術文化村で実施される「滞在アーティスト誘致交流事業」によって招聘された国内外の芸術家・作家をはじめとした様々なアーティストの創作活動に対して支援を行う。また、芸術家の滞在中に市民交流、アウトリーチ、ワークショップ等を行うと共に、成果展覧会を開催することにより、地域の方々がアートに触れ親しむ機会を創出する。	(なら歴史芸術文化村と共働実施)						
なら歴史芸術文化村 と連動した地域芸術 文化イベントの実施	6	芸術文化イベント事業	ソフト	各種団体 事業者 市	天理駅前広場「コフン」から、なら歴史芸術文化村へ至るまでの本通り商店街で、店舗の空きスペースを活用し整備した芸術通り拠点施設「Art-SpaceTARN」等の利用を促進し、なら歴史芸術文化村主催の「滞在アーティスト誘致交流事業」におけるアーティスト・イン・レジデンスの展覧会会場として利用に加え、奈良県や他市町村と連携した施設利用をより強化し、イベント等の開催、なら歴史芸術文化村までのルートにおいて文化芸術によるまちづくり事業の拠点としてアートを体感できる街づくりを進め、なら歴史芸術文化村との相乗効果により地域の賑わいを醸成する。	アート作品を展示した周遊型イベントの実施						
						芸術文化発信イベントの実施						

■つながりと支え合いのまちづくり

事業名			ハード ソフト	事業 主体	事業内容	R6	R7	R8	R9	R10	R11～	事業手法
多様な主体の絆づくり	1	政策アウトリーチ事業	ソフト	各種団体 市	天理駅前広場「コフパン」に会場された方等に対して、市が実施している各種施策を広く周知し、無関心層を市の施策でつなぐことで効果的な支援や各種サービスの提供を行うため、各種関係団体との連携を強化する。	アウトリーチ事業の実施						
	2	産前産後サポーター事業	ソフト	市	産後4ヶ月迄の母子を対象に、認定資格を持ったドゥーラがサロンを開催し、育児に関する悩みや不安を傾聴し、支援を行うことで、母の育児不安の軽減を行う。	ドゥーラによるサロンの開催						●母子保健医療対策総合支援事業
産後・子育て支援の充実	3	子育て支援ネットワーク構築事業	ソフト	市	「はぐ〜る」を地域の子育て支援拠点として、子育てサークルなどのネットワークが拡充できる場所や保育サポーターとして子育てに余裕が出た市民の活動の場を提供することで、地域として子育てを支援する体制の強化を図る。 また育児の悩みの共有・相談やリフレッシュを目的とした様々な分野の講座を開催し、子育て世代同士や地域とのつながりが持つことができる環境を整える。	切れ目のない子育て支援事業の実施継続						
	4	ハローワークと連携した就労セミナー事業	ソフト	市	多世代が集う天理駅南団体待合所及び商店街テレワークセンター等において、奈良労働局と連携し、就職面接会等に合わせ、子育て中の女性等をターゲットとした就職支援セミナーを開催する。また、駅前広場でのイベント等において、市内企業の職業紹介ブースを設け、市内での就労に繋げる。	広報・PR・セミナーの実施 イベントへの企業ブース出店						
高齢者の健康を支えるシステムの充実	5	介護予防推進事業	ソフト	市	市民ボランティアである介護予防リーダー（愛称：STEPリーダー）による健康増進と介護予防のための体操等普及や傾聴ボランティア団体による高齢者の方の心に寄り添う活動等を実施する。	介護予防リーダーによるサロン活動の実施						●地域支援事業交付金
	6	認知症対策事業	ソフト	市	駅前コフパンや天理駅南団体待合所において、世界アルツハイマー月間イベント実施したり、認知症当事者の方による講演会、初期集中支援支援チーム検討委員による講演会を行うことで、広く市民の方に対し、認知症対策の啓発を実施する。また天理大学で、学生を対象に認知症サポート養成講座を開催し、認知症をより身近な問題として感じていただく機会を作っていくなど、誰もが孤立することなく、安心して暮らせるまちづくりを推進する。	認知症予防啓発イベントの実施 認知症サポート養成講座の実施						●地域支援事業交付金
	7	多職種連携事業	ソフト	市	地域住民の複雑化・複合化していく支援ニーズに対応する包括的な体制が求められている中で、多くの分野との多職種連携の促進を図るため、看護職連携会議によるACP（アドバンステープランニング）：人生会議講演会の開催や、医師会及び歯科医師会との連携による医療知識の各種教室、在宅医療を視野に入れた医療専門職・介護専門職同士の会議などを実施し、連携体制を確保するための各種事業を展開する。	多職種連携事業の実施						●地域支援事業交付金
人と人のつながりを大切に作るまちづくり	8	少子化孤独孤立等対策支援事業	ソフト	市	希望の持てる地域社会「人と人とのつながりが安心」と思える社会を目指して少子化孤独孤立対策支援事業を実施する。例えば、養成ボランティアが未婚・結婚・離婚、子育て等様々な幅広いテーマに対して、地域の支え合いの中で中核となって活動し、相談支援やイベントを開催する。 また地元企業の雇用力向上のために商工会や青年会議所、市内外の事業者との情報共有や女性活躍に関する就労支援について賛同いただくための活動や、天理大学では、学生に向けて将来のライフコースについての教育機会として授業やフォーラムを実施する。	少子化孤独孤立等対策支援事業の実施						●地域少子化対策重点推進交付金（令和6年度のみ）

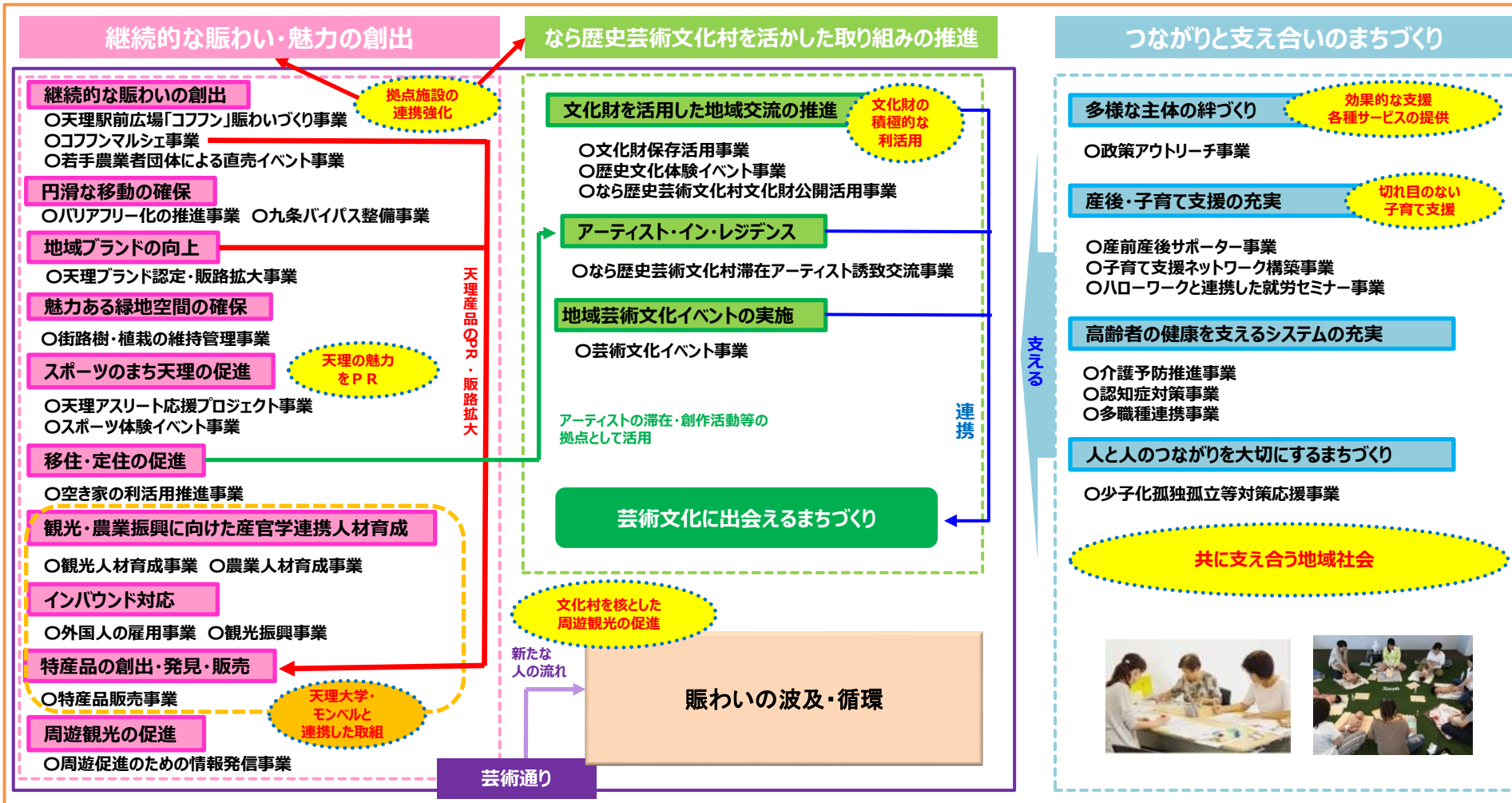
6 基本計画図



7 事業推進に向けた取り組み

(1) 天理駅周辺地区まちづくり基本計画 事業相関図

天理駅周辺地区のまちづくりのコンセプト「天理駅前広場「コフン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する」の実現に向け、本基本計画における3つの重点施策として整理した事業について、幅広い関係者や各種団体が相互に連携するとともに政策間の連携を重視した取組を戦略的に進めることで相乗効果をもたらし、当該地区内における賑わいと魅力の創造を図り、その効果を市内外へ波及・循環させる。



天理駅前広場「コフン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する

(2) 天理駅周辺地区まちづくり基本計画運用のための組織体制

天理駅前広場「コフフン」を中心に、多世代交流や文化・芸術・スポーツの発信拠点としての機能に加え、産官学連携による観光と農業の人材育成の場として持続的・自律的な賑わい・支え合いを創出していくためには、多様な方々が寄り合って様々な活動を支えることが重要であり、地元の関係者や事業の実施主体となり得る団体を巻き込んだ展開が必要である。このため、天理駅周辺地区の地域活性化に取り組む連携組織「天理駅周辺地区まちづくり協議会」を引き続き開催していく。

天理駅周辺地区まちづくり協議会

- ・天理駅周辺地区を人が集い、憩うことのできるにぎわいある空間にすることを目指し、住民、関係機関及び市の職員が専門家の助言を得て具体的な協議・検討を進め、諸課題を解決し、活性化プロジェクトを実施するため組織。
- ・メンバーは、まちづくりの観点に加え、発展させていく「天理駅前広場コフフン」に係わる多様な主体からなるメンバー。
- ・「まちづくり協議会」の会長は天理市長。「天理駅前広場コフフン」を活用した賑わいづくり（イベント等）を考え、継続して実施するとともに、「天理駅前広場コフフン」でできた賑わいを、周辺地区にも波及させていく。

天理駅周辺地区まちづくり協議会

天理駅周辺地区の賑わいづくりのため、多局的・多角的な視点から方向づけ、意見調整、情報共有をする場

委 員

【駅周辺事業者】

天理市商工会
川原城商工連盟
三島商工連盟
天理市本通り商店街協同組合
天理市三島本通商店街協同組合

【交通事業者】

近畿日本鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社

【文化芸術関係者】

天理第九実行委員会

【関係事業者】

天理大学・モンベル共同体

【公共関係者】

天理教教会本部
天理警察署
天理市区長連合会
三島町
川原城町
天理市議会
奈良県（なら歴史芸術文化村、まちづくり推進課、豊かな食と農の振興課）
天理市



8 基本計画の目標に対する事業効果（K P I）について

基本計画の目標に対する事業効果（K P I）の設定については、「天理市総合計画」、「天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等関連計画で設定している事業効果（K P I）との整合性を図りながら、適切な評価指標及び目標値を設定する。

基本計画における 取り組みの方向性	重要業績評価指標	基準値 (H30年度)	1 期目標値 (R 5 年度)	1 期実績値 (R 5 年度末)	評価	2 期目標値 (R 1 0 年度)
なら歴史芸術文化村を活用した 取り組みの推進	なら歴史芸術文化村と連携した 文化イベント開催数・集客数	—	30件 2,000人	32件 10,143人	なら歴史芸術文化村と連携して、積極的に文化財関係イベントを開催して集客を図った。開村直後に来客が集中していた状況に比べると数値は落ち着いたが、市外・県外からの集客が8割を超えている状況は変わらない。今後も市の歴史文化遺産の魅力発信に取り組んでいく必要がある。	30件 10,200人
継続的な賑わい・魅力の創出	天理駅前広場を活用した イベントの開催数、集客数	406件 30,385人	540件 20,000人	484件 19,928人	新型コロナウイルスが5類に移行されたことに伴い、マルシェや音楽イベントなど多くのイベントが開催され、大きな賑わいを創り出すことができた。新たに、天理大学・(株) モンベル共同事業体と連携した事業を進めることで、今後、この賑わい・支え合いの好循環の流れを継続的なものとし、県内全体に波及させることを目指す。	540件 35,000人
	Art-Space TARNの来場者数	1,938人	4,000人	2,917人	Art-Space TARNにおいて、県と連携した事業など行い、周知が広まり固定の利用者もできてきた。市展などの事業の変更で、実績値としては減少しているが、一般の利用者数は横ばいである。更なる周知・広報を図り、多世代が芸術文化と触れ合い交流できる活動の場を維持していくとともに、芸術文化エリアの賑わいづくりにつながる取り組みが必要である。	4,500人
つながりと支え合いのまちづくり	地域全体でお互いに支え合い 助け合う機会や仕組みが 充実していると思う市民の割合	32.9% (R1年度)	38.5%	41.1%	令和3年度以降、地域の支え合いが充実していると感じる市民は40%を超えている。天理市生活支援サポーターやハローパートナーシップメンターなどのボランティア養成が進み、地域住民の支え合い活動が推進されてきた。今後もボランティア養成を進めることで、住み慣れた環境で安心して暮らせる支援体制づくりや結婚応援を入り口とした相談活動に取組み、地域の支え合いの更なる充実を目指す。	52%

基本計画における 取り組みの方向性	重要業績評価指標	基準値 (R 5 年度)	2 期目標値 (R10年度)
継続的な賑わい・魅力の創出 なら歴史芸術文化村を活用した 取り組みの推進	観光消費額	85,000,000円	200,000,000円

